

美術館建設を求める請願書

要 旨

日頃は当市における市民の美術文化活動に対し一方ならぬ、ご支援ご指導を賜りありがとうございます。

さて、一昨年に市町村合併が行なわれ、十万都市伊賀市が誕生致しましたが、市民の芸術文化の発表の場、鑑賞の場としての美術館がありません。

伊賀市には近代美術の先駆者、故奥瀬英三画伯をはじめ、三重県で唯一の日展審査員を務められた、故関田庄司画伯、また、現在世界的にご活躍の元永定正画伯、榊 莫山書家をはじめ伝統陶芸の伊賀焼き作家や様々な分野で全国的に秀でた作品を生み出す作家が育つ素地がある土地柄です。

創作活動は人々の心を豊かにし、美的感覚を高める大切な手段でもあり、特に其の作品展示の場から美術への関心が深まり、美術文化の質の向上とともに人間形成へとつながります。

市内には、数多くの美術作家や愛好者がグループ、サークル、会派を作り制作活動を日常のものとしていますが発表の場がありません。市民ひとり一人が日常的に美術に接し、美術文化への認識、美的想像力、新しい感覚を磨く事の出来る美術館が必要だと思えます。

そこで、十万都市にふさわしい美術館を早期に建設が実現する様、市民の署名を添えて請願するものです。

美術館の概要

建設地	旧上野市街中心部で文化関連施設近くに建設地を設定する
規模	伊賀地域の風土と歴史にあった建築にして、美術関係専門施設とする事 大展示室（幅30m x 長60m x 高4.5mパーテーション分割可能タイプ） 小品展示室(複数) 研修室、会議室 湯沸かし室。トイレ等生活スペース
付属施設	レストラン、喫茶室、駐車場

美術館建設を求める
要望書

美術館建設を求める会

美術館建設を求める要望書

伊賀市 市長 岡本 栄 殿

いま、東京都内の文化庁「国立近現代建築資料館」中央展示室では、既に解体された北庁舎や中央公民館を含めた「旧上野市庁舎」が、解体前の全容模型が堂々とディスプレイされ、多くの見学者の注目を集め、改めてその歴史的、文化的価値が見直されております。このような、いま直ぐにでも、「国登録有形文化財」にするための申請を考慮しなければならない建造物を、ただ新しい建物を建てたいという理由だけで解体してしまうことは愚行としか言いようがありません。

当市は、多様な歴史的、文化的資産に恵まれた地域であることは多くの市民の秘かな誇りであり、多くの芸術家を輩出していることも知られています。しかし、残念なことに、それら多くの芸術家や彼らの作品を展示し紹介し、より理解を深めてもらう場所やスペースは長年にわたり恵まれないままです。そのために、伊賀市に遺したい作品が市外へ流失することさえありました。私ども団体はこのような悲しい状況を変えていただく為に、2008年4月に当時の今岡市長には「美術館建設を求める要望書」を、同様の「請願書」を当時の小丸市会議長に市民の署名を添えて提出いたしました。五年の歳月を経た今日、我々の要望や請願は様々な理由でいまだ実現されておりません。

私どもは、昨年末12月25日に発表された、「現南庁舎を保存し複合施設化する」という岡本市長の方針発表を重く受け止めております。単に美術施設だけではなく、芭蕉記念館や歴史的博物館などを複合する事によって、維持管理費、人件費等々の経費削減と効率の良い運営をもたらす複合型施設の構想は、財政逼迫の折、誠に当を得たものであり、その計画実現を強く要望し、美術施設が現実のものになる事を願っております。